

企画展 フォトギャラリー 藤田晴一氏の世界

【1部】うさ・くにさきに息づく神と仏
令和7年4月1日(火) → 6月22日(日)

【2部】おおいたの国宝
7月4日(金) → 8月31日(日)

本展では、1部で大分県有数の歴史・文化遺産の宝庫である宇佐・国東に息づく神と仏を紹介し、2部では、宇佐神宮本殿をはじめとする、「おおいたの国宝」の魅力を紹介し。



月の道(杵築市市杵島)
(藤田晴一氏撮影)

企画展 宇佐のいのり — 神仏をみつめる —

【1部】4月25日(金) → 6月22日(日)

【2部】7月4日(金) → 8月31日(日)

宇佐は、考古資料から仏像まで、豊かな歴史と文化をもつ宝庫です。本展では、宇佐神宮にゆかりのある寺院の仏画や仏具・古文書などを紹介します。



髪續浄土曼荼羅(部分)
(宇佐市指定有形文化財 極楽寺所蔵)
(藤田晴一氏撮影)



特別展 豊後国行平 — 「祈り」の刀剣 —

9月19日(金) → 11月3日(月)



太刀(銘「豊後国行平」) (大分県指定有形文化財 当館所蔵 中村慧氏撮影)

平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて活躍した「豊後国行平」は、大分県を代表する刀工で、行平の現存作品の多くは、寺社に奉納されたものや、将軍家あるいは有力武将に伝来してきたものです。本展では、名工行平の作品を一堂に集め、各作品の背景にある歴史とともにその魅力を紹介し、さらに、行平の作品の特色である俱利伽羅竜剣などの刀身彫刻に注目し、武士の「祈り」に関連する多様な文化財を展示し、武士の精神文化に迫ります。



企画展 昭和100年

12月12日(金) →
令和8年2月15日(日)

令和7年は昭和100年にあたります。日本の元号で最も長い期間使用された「昭和」。1926年12月25日に改元されました。本展では、「戦争」「復興」「成長」をキーワードに昭和の時代の歴史と人々の暮らしについて紹介します。



「昭和」の元号を考案した吉田増蔵
(みやこ町歴史民俗博物館提供)

企画展 れきはくコレクション2026

3月20日(金) → 5月10日(日)

大分県立歴史博物館では、昭和56年の開館以来、美術工芸・歴史・考古・民俗など、さまざまな分野の文化財を収集してきました。本展では、学芸員が選りすぐった当館収蔵文化財を通して大分県の文化の豊かさや奥深さを紹介します。



銅像釈迦如来坐像(当館所蔵)



人びとの暮らしと祈りをテーマに、おおいたの歴史や文化の魅力を紹介します。

生死いのり

古墳時代を中心に、おおいたの人びとが暮らした様子を、生や死、祈りといった視点によって紹介します。



豊の古代仏教文化

豊前・豊後地域、なかでも宇佐に生まれた仏教文化について、古代寺院の痕跡を探りながら紹介します。



宇佐八幡の文化

国家神として位置づけられ、広く信仰を集めた八幡神と、それをまつる宇佐宮の歴史について紹介します。



六郷山の文化

国東半島の寺院群、六郷山が育んだ独特な仏教文化について、今なお残る多様な文化財によって紹介します。



富貴寺大堂の世界

六郷山を代表する文化財、国宝富貴寺大堂の世界を、当時の様子を再現した実物大模型や壁画によって紹介します。



広がる仏教文化

磨崖仏・石塔などの石造文化財を筆頭に、全国に誇るべきおおいたの仏教文化について紹介します。



信仰と暮らし

人びとがおこなってきた神仏への祈りや日々の暮らしの様子を、信仰用具や民具によって紹介します。

